

SEALDs(Student Emergency Action for Liberal Democracy-s)は、自由で民主的な日本を守るための学生緊急アクションとして 2015 年 5 月 3 日発足した。前身は SASPL(Students Against Secret Protection Law)特定秘密保護法に反対する学生有志の会である。安倍首相の安保法制案に反対する国会前での抗議デモを皮切りに、毎週金曜日国会前で抗議デモを主催している。その主要構成メンバーは、10代から20代前半の若い世代である。「今こそ、若い世代こそが政治の問題を真剣に考え、現実的ヴィジョンを打ち出さなければいけない」とあるように、当事者立場から若者の政治参加の意義を訴える。「デモはかっこいい」と思わせるのがモットーで、ラップやヒップホップを取り入れた新しい運動スタイルを目指している。ネットや動画サイトを積極的に活用し、注目を集めた。

現在、神奈川大学に通う法学部1年の男子学生が SEALDs に入ったきっかけは、憲法のテスト後に当時 SASPL の幹部の学生3人が民主主義に関するデモについての講演を聞いたことだ。彼らは SASPL という SEALDs の基となる「特定秘密保護法に反対する学生有志の会」に所属し、学生として反対意見を国家、国民に主張する活動を行っていた。もともとデモに興味があり、この活動を知っていた彼は、聴講者が帰る中1人シールズの入団を希望しに行き、数日後のデモ参加が決定した。

初めてのデモに彼は興奮したという。国会議事堂の前に集結したデモ参加者らの情熱的な空気に自然とのめり込んでいった。

「講演とは違い、ただの文字じゃなくて他の人たちをも動かす事ができる」と彼は話す。実際に、当初よりデモを行うことの影響で徐々に参加者も増加している状況を目の当たりにし、デモの効果を実感している。

SEALDs のメンバーは、安保法案に反対するという共通の認識のうえ、団結している。反対する理由は人それぞれであり、彼は法案として全体的に憲法違反だから、とシンプルに答えた。お互いの知識、意見を共有するための講演会や会議も頻繁に開いているという。ただし、これらはどれも任意であり、中立の立場である学生も歓迎するなど、あくまで学生有志の集まりという立場 SASPL から変わらない。

安全保障関連法案が今年9月17日に可決されて今は、廃案、もしくは法案に切り替えて対応している。今後も打倒安倍政権をかかげ、SEALDs の活動は続くことを彼は予想する。

また、その日のデモには学生有志のデモ団体も参加し、野党の政治家たちと共に国会議事堂で演説をしていた。